

令和4年9月13日(火)例会(第2848回)報告(晴) No.2676

出席率 …… 29/38 76.32% 第2846回補正出席率 …… 36/39 92.31% コロナ対策例会

来訪者(松江RC) 加藤 (米子東RC) 上森、岩崎
欠席者 川田、酒井(博)、定秀、津田、友森、中村、堀田、松井、村山
メイクアップ(米子RC70周年) 三輪、赫
出席免除 足立、酒井(英)、藤瀬、増谷、渡辺(昇)

◆会長時間 三輪昌輝 会長

9/11(日)米子RCの70周年式典は、コロナ禍により大変コンパクトでした。創立以来一貫したテーマは「街に緑を」だそうです。さて、ソニーとホンダが折半で会社を作り、電気自動車の開発をする発表がありました。様々な分野でこれまでの延長にないゲームチェンジが起きているように思われます。電気自動車も、高額な購入費と走行距離がネックで需要が伸びませんが、そのニーズを捨ててしまい、例えば100万円以下で充電時間も10分以内にできれば、1日30kmしか走行できない電気自動車でも主婦層に爆発的に売れるかも知れません。そうすると普及率は、エンジン車と逆転し、ガソリンスタンドの存在意義が変わります。本日の卓話はそんな気づきの機会であるように思い、楽しみにしております。

◆バスト会長時間 小林 哲 バスト会長(2013-14年度)

私の会長年度は境港RCからのガバナー輩出が最重要課題で、庄司さんに受けて頂き何とか決めることができました。それから早10年、今年65歳になり同級生は一斉に現役引退の様相ですが、自分は仕事柄まだまだケリもキリも付かず、「どっちがいいのかな」と思ったりする今日この頃です。



米子東RC 上森英史会長ご挨拶

5月のロータリー奉仕デー事業にはご協力ありがとうございました。来る10/16(日)は、世界ポリオデー事業への支援として、水木ロードでの募金活動などご協力を宜しくお願いします。

◆幹事報告 赫 太郎 幹事

◎友末G事務所より「地区大会表彰連絡」 ◎米山奨学会より「第6回米山功労クラブ感謝状」 ◎次週は休会(定款7条)

◆9月定例理事会報告 赫 太郎 幹事

【議題】①少年ナイター決算→承認 ②青森大雨災害支援[審議]→予備費から4万円寄付 ③世界ポリオデー事業[審議]→協力イベントの実施を承認 ④今後の例会場について[協議]→みなとテラスと境港水産事務所の利便性・料金・備品保管等も含め検討を進める。

◆10月行事予定(経済と地域社会の発展/米山月間)

- 10/1~2(土日) 地区大会(津山市)
16(日) 世界ポリオデーイベント
18(火) 休会(定款7条)
30(日) 近郊日帰り家族旅行(大山周辺)

9月結婚記念日祝い

11日 村山尚史 会員

— スマイルBOX —

◎誕生祝 小坂、島谷、三輪 ◎出席表彰 岡空 ◎卓話講師として 加藤氏 ◎5月に開催されたロータリーデーの協力、ありがとうございました。米子東RC上森会長 【加藤所長様をお迎えして】木村、小林、庄司、瀬戸、谷田、中木、中田、北國、三輪、鷺澤 ◎米子東RC様をお迎えして 中木 ◎鳥取県展で、日本画入選しました。木村 ◎スマイルに協力 喜多村、屬、浜田(貴)、松本(勝)

9月誕生日祝い

2日 三輪昌輝 25日 小坂勇次
4日 島谷一憲 各会員



三輪会長



島谷会員



小坂会員

◆委員会報告

◎親睦委員会…岡空晴夫 委員長

数年ぶりに秋の家族旅行を企画しました。10/30(日)貸切りバスで大山周辺を1日楽しめます。ご家族含め多数ご参加下さい。

◎「ロータリーの友9月号」紹介…小林 哲 雑誌・広報委員

— プログラム —

— 「空飛ぶクルマと交通・物流産業のゲームチェンジ」 —

日本政策投資銀行 松江事務所長 加藤隆宏 氏

空飛ぶクルマは、飛行機が自動車のように使い勝手が良くなったもので、ドローンの大きいものが人を乗せて飛ぶイメージです。経済産業省では2025年の大阪万博で実車実験を行い、2020年代の後半には商用運転を開始、2030年代にはサービス路線の拡大を目指しています。技術の開発はもちろんですが、安全性の基準、どこを飛ばせば良いか、離発着の場所等、制度設計も大切です。



空飛ぶクルマには2種類があり、羽が付いているものは「固定翼タイプ」、羽が付いていないものは「マルチコプター」と呼ばれています。固定翼タイプは飛行距離100~130kmで飛行機と競合しますが、乗れる人数は4、5人です。マルチコプターの値段は数千万円になります。都市間の移動エアタクシー、災害時の救助、離島への移動などに使われます。

ポイントの第1点は、遠い将来のことではないと云うことです。第2点は飛行機・車など、他の交通手段と相互にオーバーラップし、両者の間に入り込むことです。3点目はモノづくりが得意な我が国を出すチャンスでもあります。空飛ぶクルマは飛行機と違い大量生産が求められており、物づくりは我が国が得意な分野です。

ヘリコプターとの違いは、電動化と自動化です。クリーンであることも必要で、水素燃料や蓄電池の活用も考えられています。空飛ぶクルマへは、航空業界・自動車業界・金融投資家などから多くのお金が投資されています。すでに受注もあり、中には1785機受注している会社もあります。

山陰新幹線が出来るのにはあと何十年もかかるといいますが、それまでに空飛ぶクルマの時代がやって来るかもしれません。大量輸送には高速道路とトラックが必要ですが、人が乗って移動するという事に限定すれば、こういう世界も早く来ると思います。モノづくりが得意な我が国が力を発揮するチャンスです。

今回(9月27日)プログラム

「自由奔放な経営を！」
ココリト大根島 代表 松本協一氏

次回(10月4日)プログラム

「地区大会報告」
地区大会参加会員